

「事故や攻撃を想定した」シミュレーションはやっていません」

3月11日、野党国会議員から成る超党派の「沖繩等米軍基地問題議員懇談会」(会長・立憲民主党の近藤昭一衆院議員)が行なった省庁ヒアリングで、防衛省が驚くべき発言をした。同日のテーマは、宮古島で建設される弾薬庫だった。シミュレーションをしていない理由は、火薬類取締法などの関連法に「規定がない」ことだという。

それでは、非常事態への対策は何か。「保安距離(付近の建物などに影響を及ぼさないよう確保する一定の距離)を確保することが対策」と防衛省は繰り返している。参加議員からは「答えになっていない」などの声が上がった。防衛省の無責任ぶりは、その後の答弁でも続いた。一部、抜粋する。

**初鹿明博衆院議員(立憲民主党)**  
「保安距離をとつていけば、どんな事態でも近隣住民は安全であると考えているのですか?」  
**防衛省職員**「建設にあたりすべての事案で保安距離を確保するという対策をしております」

**石橋通宏参院議員(立憲民主党)**  
「どうやって住民の命を守るのか。これは宮古島だけでなく、各地の弾薬庫の問題にもなる。(弾薬庫が)攻撃対象になるのは当然の想

## 自衛隊配備問題に苦しむ宮古島・石垣島

# 「非常事態のシミュレーションはしていない」、防衛省が仰天発言

自衛隊配備が進められている南西諸島では、弾薬庫設置に関して、爆発などの事故や、攻撃を受けるなどの非常事態の想定がなされているのか、という点が大きな懸念のひとつに提起されてきていた。これに対し、シミュレーションしていないことを防衛省が認めた。無責任ぶりが露呈する一方、宮古島、石垣島では苦境が続いている。

本誌取材班

定なので聞いています」

**防衛省職員**「……施設建設するにあたり保安距離が……」

**初鹿議員**「建設のことはきいていない。完成後の攻撃についての対策を尋ねています」

**防衛省職員**「建設後の対策としては保安距離を確保するという説明をしています」

**屋良朝博衆院議員(国民民主党)**

「沖繩の米軍嘉手納基地は外から弾薬庫は見えませんが、かなりの距離を取っている。さらに覆土式にするなど、攻撃を想定して作っていると思われるが、皆さんは非常事態は想定してないという。そんな防衛施設は危なっかしくて住宅地のそばに作るのはいけません」

**防衛省職員(沈黙)**

しかし、防衛省が繰り返すこの「保安距離」についても、チェッ

## 宮古 弾薬庫建設開始か

ク機能に透明性がない。「貯蔵爆薬量」などによって保安距離は変わるのだが、保安検査は幕僚長等によつて毎年1回実施され、結果が防衛大臣に報告されるのみで、その情報は公開されていない。ブラックボックスだ。

こうした状況下にもかかわらず、宮古島の保良地区では弾薬庫建設が始まろうとしている。

弾薬庫予定地から、保良地区の保良集落までの距離は非常に近い。近隣住民によると、最も近い民家は直線距離で約200メートルにあり、保良集落の半分が1キロ圏内にある。昨年には、陸上自衛隊の教範(教科書)に、地对艦ミサイルが火災に巻き込まれた際の爆発までの時間は約2分で、その際は1キロ以上離れるなどの対

応をすることと示されていたことが判明し、住民らの懸念は一層大きなものになった。さらに非常事態のシミュレーションもされていないとなると、不安は一入だ。

弾薬庫の建設工事はすぐにも始まる可能性があるが、3月21日に抗議集会とデモがあった(主催「ミサイル基地いらない宮古島住民連絡会(住民連絡会)」。集会は、千代田地区に造られた宮古島駐屯地前で行なわれ、約50人が参加。保良に住む「ミサイル・弾薬庫配備反対! 住民の会」の共同代表の山下博盛さんは「昨年12月頃まで(建設予定地への)ダンプの出入りがあり、その(出入りを阻止する)闘いをやった。その後、弾薬庫を置く場所の整地作業がなされ、ほぼ出来上がっている。これからフェンスなどが張られ、本格的な建設が始まるのではない